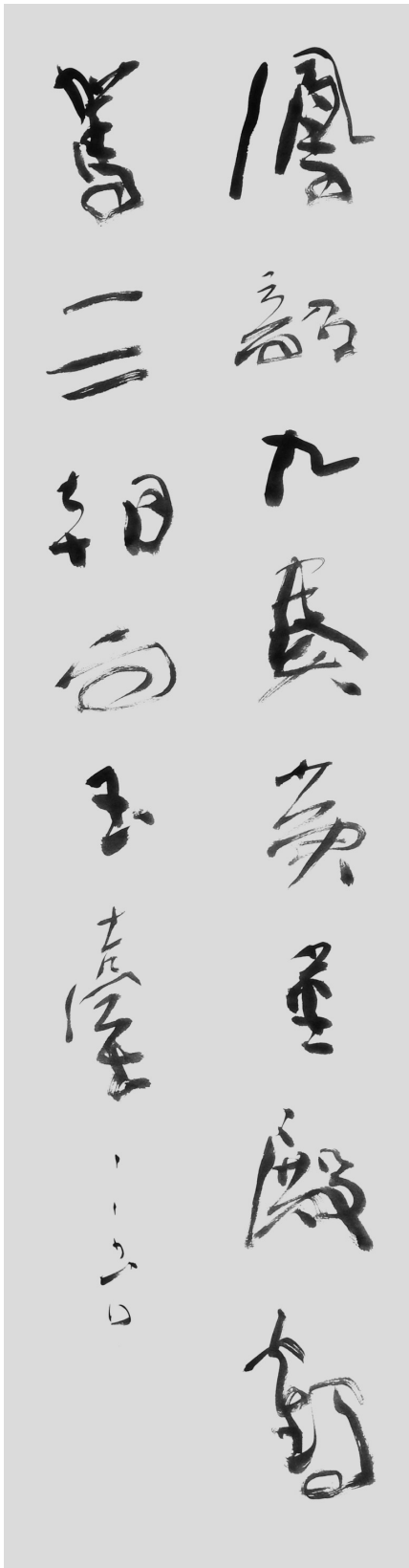


条幅部自由参考

12月15日正午必着

明石春浦先生書

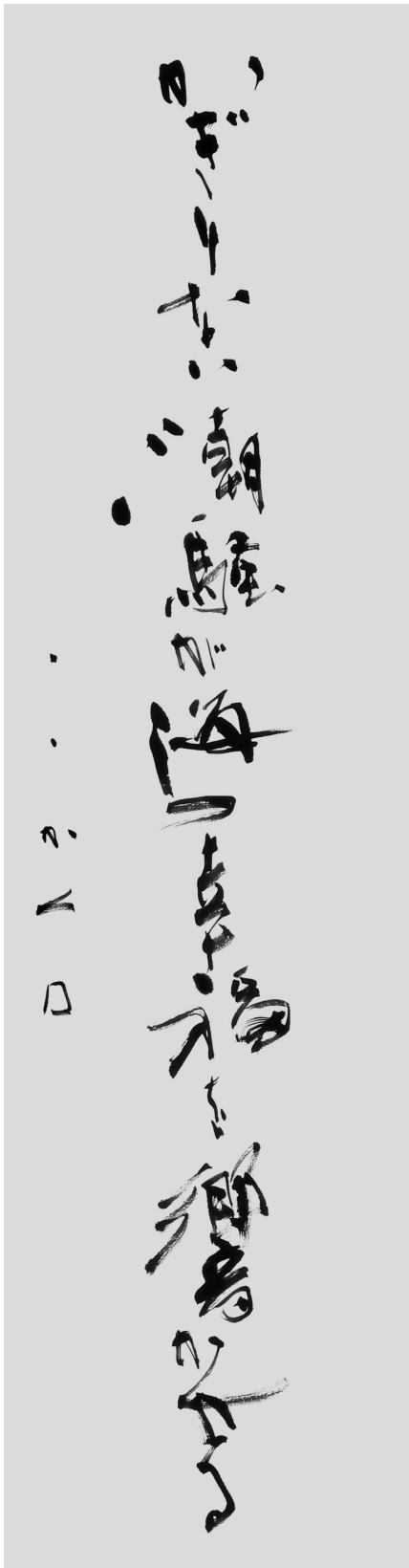


鳳詔九奏黄金殿。

鶴駕三朝白玉臺（丁鶴年）

鳳詔は虞舜の音楽。三朝は歳首の朔日。漢書孔光傳の注に「歳の朝、月の朝、日の朝。故に三朝という」と。

明石幸子書



かぎりない潮騒が海に響かせる（前田鐵之助）海の方へ（抄・部分）



条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

白髮僧無事
松間洗藥苗
指客過山腰
鐘不歸去

白髮の僧は、松林で薬草の苗を洗っている。夕暮れの鐘を聞いても僧は帰らない。なぜかと問うと客人が山の中腹を歩いているのを指さす。

(姜宸英)

白髮の僧は、松林で薬草の苗を洗っている。夕暮れの鐘を聞いても僧は帰らない。なぜかと問うと客人が山の中腹を歩いているのを指さす。

温泉冰陽谷凝 (劉 因)

温泉冰り陽谷凝る

陽谷は日の出るところ。書經堯典に「宅嵎夷曰暘谷」と。

孤村野水斜陽外 (游九言)

孤村の野水斜陽の外
無數の歸鴉晚風に落つ

田園の所見である

送耿山人游湖南 (周 賀)

耿山人の湖南に遊ぶを送る

南行隨越僧 舊業一池菱

南行 越僧に随い 旧業 一池の菱

兩鬢已垂雪 五湖歸掛簪

兩鬢 已に雪を垂れ 五湖 帰りに簪を掛く

夜濤鳴柵鎖 寒葦露船燈

夜濤 柵鎖鳴り 寒葦 船灯露わる

此去更無事 卻來猶未能

此の去 更に無事ならん 却來 猶お未だ能わじ

起きいでし 兒が茶の間にて ストープは 雪の匂ひが すると我に云ふ

(酒井 廣治)

半紙部規定課題A

12月15日正午必着

俱 萬
寂 籟
止 此

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

12月15日正午必着

行書

萬籟此
俱寂

隸書

萬籟此
俱寂

明石春浦先生書

草書

萬籟此
俱寂

行草書

萬籟此
俱寂

すがすがしい晨、年古りた寺に入って行くと おりしもさしのぼる朝日の光が、空高く茂る林の梢を照らす
曲りくねった径はしずかにおくまった処に通じ 僧房のあたりに、花咲く木々が深く茂っている
山中の風光は、鳥の本然の性を満足させ 潭に映ずる影は、人の心の雑念を拭い去ってくれる
すべての物音が、いまやここにすべてひっそりとしずまり ただ寺でうちならす鐘と磬の音だけがきこえてくる

題「破山寺後院」 常建

清晨入古寺

初日照高林

曲徑通幽處

禪房花木深

山光悅鳥性

潭影空人心

萬籟此俱寂

惟聞鐘磬音

破山寺の後院に題す 常建

清晨 古寺に入り

初日 高林を照らす

曲徑 幽処に通じ

禪房 花木深し

山光 鳥性を悦ばしめ

潭影 人心を空しうす

万籟 此に俱に寂たり

惟だ鐘磬の音を聞くのみ

(出典)
朝日新聞社刊
「三休詩」下より

之志千載一遇也。亦將行千載一隆之道。豈其局蹟當時。止於兼并而已哉。夫兼并者非樂生之所求。疆燕而廢道。又非樂生之所求。局蹟當時心於兼并而已哉。夫兼并者非樂生之所求。樂生之所求。疆燕而廢道。又非樂生之所求。也不屑苟得則心無近事。不求小成。斯意兼天下者也。則舉齊之事。所以運其機而動四海也。夫討齊以明燕之主義。此兵不興於為利矣。圍城而害不加於百姓。此仁心著於遼。利矣。圍城而害不加於百姓。此仁心著於遼。遼矣。舉國不謀其功。除暴不以威力。此至德（全於天下矣）。

(樂生)之志。千載一遇也。亦將行千載一隆之道。豈其局蹟當時。止於兼并而已哉。夫兼并者非樂生之所求。疆燕而廢道。又非樂生之所求也。不屑苟得則心無近事。不求小成。斯意兼天下者也。則舉齊之事。所以運其機而動四海也。夫討齊以明燕主之義。此兵不興於為利矣。圍城而害不加於百姓。此仁心著於遼矣。舉國不謀其功。除暴不以威力。此至德（全於天下矣）。

(樂生)の志は、千載一遇なり。亦た將に千載一隆の道を行わんとす。豈、其れ當時に局蹟して兼并するに止まるのみならんや。夫れ兼并は樂生の屑しとするところに非ず。疆燕にして道を廢するは、又樂生の求むる所に非ざるなり。苟も得ることを、屑しとせざるは、則ち心、事に近づく無く、小成を求めざるは、斯ち意、天下を兼ねるものなり。則ち齊を挙ぐる事は、其の機を運して四海を動かす所以なり。夫れ齊を討ちて以て、燕主の義を明らかにす。此れ兵、利の爲にするに興ざるなり。城を圍みて害、百姓に加えられざるは、此れ仁心の遼に著るなり。國を挙げて其の功に謀らず、暴を除くに、威力を以ってせざるは、此れ至徳の（天下に全ければなり）。

着必正午15日12月

此兵不興於
此兵不興於

此れ兵、(利の為にするに)興さざるなり。

此兵不興於為利矣圍城
而害不加於百姓此

此れ兵、利の為にするに興さざるなり。城を囲みて害、百姓に加えられざるは、此れ(仁心の遐邇に著るるなり。)

奈良 光明皇后・樂毅論

光明皇后、大宝元年(七〇一年)〜七六〇年)奈良時代の人、藤原不比等と異大養三千代(橘三千代)の娘。聖武天皇の皇太子時代に結婚し、七一八年阿部内親王を出産、七二七年には基王を生んだ。光明皇后というのは通称で、正式な尊号は天平応真仁正皇太后という。仏教を篤く信仰し、その実践として悲田院や施薬院などを設置したことは知られている。

「樂毅論」といえば、書聖王羲之のものが知られている。王羲之の楷書作品の中で最も評価が高く、隋の智永は、正書第一と称し、唐の太宗は哀惜のあまり「蘭亭序」とともに墓の中まで持っていったという逸話もあるくらいである。内容は、中国の三国時代、魏の夏侯玄が、燕の宰相樂毅が斉を討ってその七十余城を降したものの、二城を攻略しなかったため世の避難を受けているのを夏侯玄が弁護した内容となっている。

光明皇后の「樂毅論」は中国より請求の模本を臨書されたものと考えられる。卷子本で縦25cm長さ127cmの白麻紙に四三行で書かれ署名から皇后四十四歳の作である。

この作は、見る者の心を打たずにはおかない熱情、迫力そして気品に溢れている。皇后の高い教養と人格がうかがえるものといえる。起筆から次から次の点画を生み出すような展開から、虚画までもが充実しているといえる。現在、正倉院宝物として蔵されている。(春廣)

12月15日正午必着

教育部毛筆

けい

えい

中学一年

雨宮春聲先生書

こんじゃくものがたり
今昔物語

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ゆう
有

のう
能

小学五年

榎戸春龍先生書



とう
登

ちょう
頂

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

12月15日正午必着



あ ず き
小 豆

小学三年

藤田幸春先生書



りゅう こう
流 行

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ね こ 小学一年・幼年



森戸春濤書

おお だま 大 玉 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

た山里の冬げしき	白一色にそめられ
----------	----------

小学五年

冬のねむりの中です	小さな虫たちは深い
-----------	-----------

小学六年

思い浮かんでくる	幼き日の無数の瞬間が
----------	------------

中学

今日はこの冬一番の寒いことの	ことおえ気におどろいてすか
----------------	---------------

一般(級位)

みかきもり衛士のたく火の夜は燃え	は消えつつ物をこそ思へ
------------------	-------------

みかきもり 衛士のたく火の夜は燃え 昼は消えつつ物をこそ思へ (大中臣能宣朝臣)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可) また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

か	あ
わ	か
い	い
い	ほ
り	っ
ん	ぺ
ご	の

幼年

ま	大
を	き
	な
つ	ゆ
く	き
っ	だ
た	る

小学一年

で	五
	色
え	の
を	ク
か	レ
い	ヨ
た	ン

小学二年

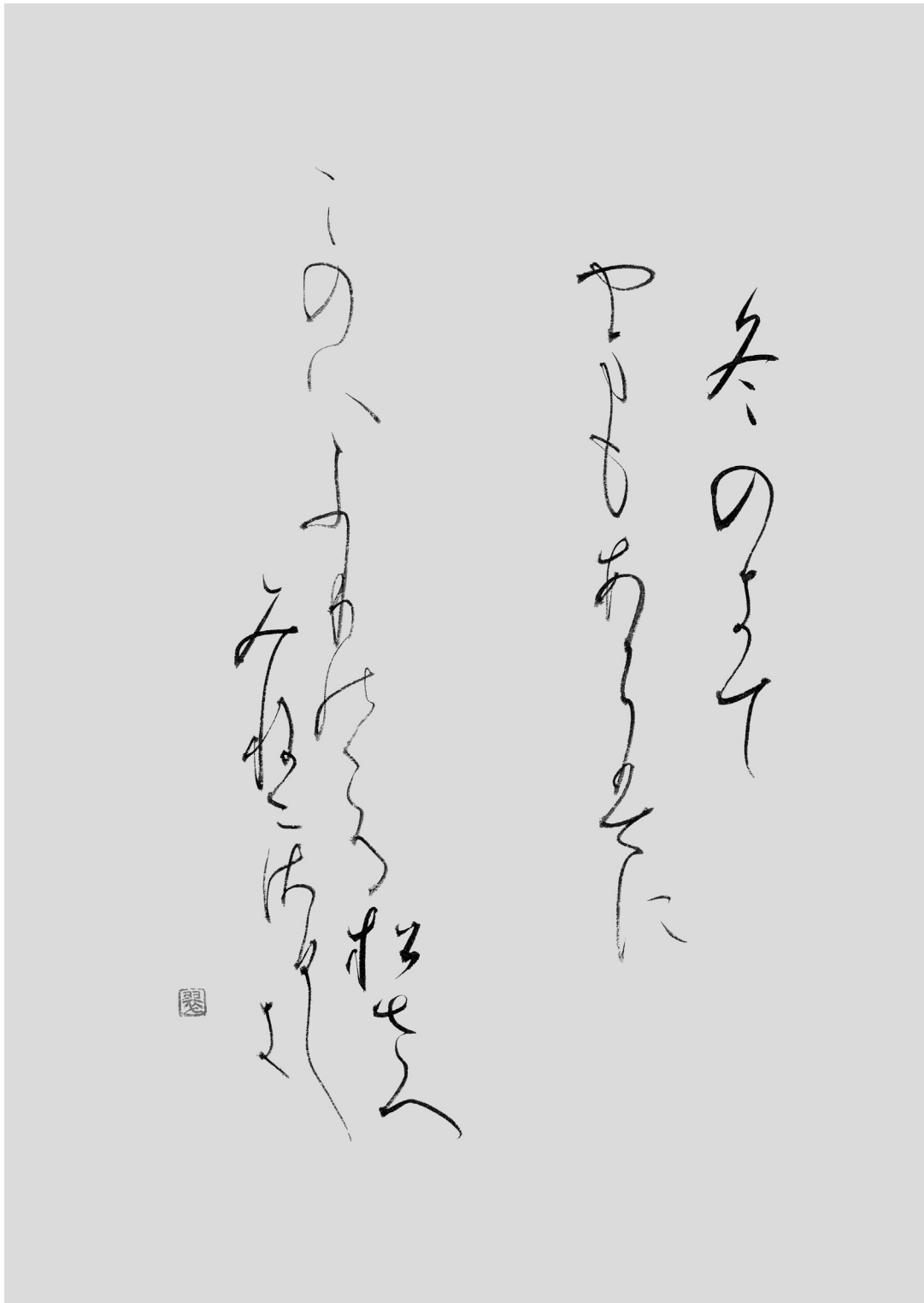
元	北
気	か
に	ぜ
あ	の
そ	中
ぼ	で
う	

小学三年

の	か
白	な
銀	た
を	に
望	北
み	ア
ま	ル
ま	プ
す	ス

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

冬のきやまもあらはにこのはふりのこる松さへみねにさひしき
 支万盤八利能二佐日支

(新古今集)